

1959年5月26日第三種郵便物認可 2018年6月5日発行【毎月5日発行】第60巻6月号(通巻705号)

創ろう! 市民自治のゆたかな社会

# 月刊自治研 6 2018

vol.60 no.705



沼津市駅前には、三澤さんと繋がり深い素敵なお店がたくさんあります。REFSは、沼津産のストーリーを持ったこだわりの品が販売されています。



地域を支える人

## 三澤和也さん

沼津市沼津駅周辺整備部整備課



沼津市沼津駅周辺整備部整備課 三澤和也さん

〈地域を支える顔〉



1935年創業の喫茶店ケルン。「いつまでも営業を続けてほしい」と三澤さん。



REFSが商品化した「戸田橋清香オイル」。三澤さんも開発に携わった商品です。

沼津市を盛り上げていこうと沼津市職員で立ち上げたProud Numazu研究会。その中心となって、沼津愛を全面にまちへ飛び出し、楽しさをキーワードに幅広い活動を展開している三澤さんにお話をうかがいました。

—— 出向先で知った  
まちづくりの面白さ

私は、父に憧れて沼津市役所に入りました。沼津市役所でにぎわい企画や広報紙の制作などさまざまな仕事をこなす父を見て育ち、いつか自分も生まれ育った沼津市のために働きたいと考えられるようになりました。

市役所に入ってから、与えられた仕事を全力でやろうと毎日過ごしていましたが、入職8年目、隣の三島市への出向が転機となりました。配属先は市民と協働でまちづくりを担う「まち再生課。上司から、「どんどん企画して仕掛ける!」と言われ、これまでと違うやり方に大きなショックを覚えました。それと同時に大きな自由を手に入れたような気がして、公務員のや



### “虹色社会”をめざして —LGBT/SOGL入門





「あしたかローカルマーケット」には、三澤さんの地元「愛鷹地区」の方が参加してくれました。



地元の子もたちが、描いた「僕たちの住みたい夢のまち」。少しでも近づけるように頑張ろう！



「あしたかローカルマーケット」の企画運営を担った三澤さんと仲間たちの充実した表情。

「あしたかローカルマーケット」を開催。海の地元沼津市の愛鷹地区で、「あしたかローカルマーケット」を開催。海の地



「THIS IS NUMAZU」は、沼津の「美酒美食」の祭典。毎年9月の第二木金土で開催します。



沼津を代表するバーテンダーやシェフが沼津のおいしさを発信します。イベントに合わせたオリジナルカクテルも登場して、文字通り「沼津に酔う」こと間違いなし！



沼津自慢フェスタ「THIS IS NUMAZU」で実行委員として挨拶をする三澤さん。熱い！



「THIS IS NUMAZU」の顔ともいえるセンターテーブル。会場が引き締まります。



沼津の未来を担う高校生が、沼津を代表する料理人に付いて、その技を間近で学んでいます。

三島市での2年間の出向を終えて沼津市に戻ると、商工振興課でアンテナショップ「沼津自慢屋」を担当することになりました。イベントの企画を考えるなかで、沼津のおいしいお酒（地酒やクラフトビール）とおいしい食材を組み合わせたオール沼津のビアガーデンをやったら楽しそうだと思い「沼

Proud Numazu研究会の仲間たち



マリンスポーツのインストラクターと企画して2013年にはじまった「沼津ビーチフェス」。海山川、さまざまなアクティビティを楽しめることが沼津の魅力です。



子どもから大人まで誰でも参加できる「ビーサン飛ばし選手権」を主催。沼津ビーチフェスの人気アクティビティとなって毎年多くの方が参加してくれました。

りがいに目覚めました。一方、我が沼津市を振り返ってみると、市民と市役所の距離が離れ、元気がないように感じました。これはまずいぞと危機感を覚え、出向中でしたが気の合う同世代（団塊ジュニア世代）の仲間たちとDJ会という勉強会を立ち上げました。「まずは沼津市のことをもっと知ろう！」と時間外に集まって互いの業務を説明しあったり、沼津市で活躍する先輩たちに話を伺ったりもしました。この時期の活動を通じて、「自分たちが主体的に行動する」という意識を持つようになりました。





REFS 代表の小松さんと、店前のベンチで打合せ。



まちに飛び出していくこと、まちを歩くことを大事にされています。



全米一住みたいまちと言われるポートランドの視察報告会「LINK NUMAZU」。「ヘンテコなまちをめざそう！」と呼びかけます。



沼津の魅力イラストを集約して職員がまちをPR「名刺タイプロモーション」。

域、山の地域、個性豊かな地元（ローカル）が点在することが沼津市の魅力でもあるので、「ローカルを楽しむ」動きがもつと沼津市全体に広がれば、もつとこのまちは面白くなると信じています。他の地域からも相談を受けているので、近く実現しそうで楽しみです。

### ——楽しさが日々の原動力

これらの活動は市役所の仕事と関係ない部分で取り組んでいます。公務員という肩書は、「信用」という大きな力を与えてくれますが、私の場合、市役

所の職員なのになんか「面白くない」と思っていることにメリットを感じています。私のような「変な職員」が、市役所の中と外をつなげ、面白いことを増幅させるお手伝いが出来たらいいなと考えています。

仕事と研究会の活動を両立させるのは大変じゃないですか、とよく聞かれますが、研究会の活動に仕事が入り込むこともあるので、私にとっては欠かさないものです。沼津を元気にしたいと思って活動していますが、たくさんの方から逆に元気をもらっているのが、私の元気の源とも言えます。

まちの魅力を高めるためには、職員自らがまちのことを知って、地元愛を育み、オリジナルのまちづくりを行うことが大切だと感じています。そして、一人ではできないことなので、一緒に行動してくれる仲間を大切にしたい。あと、いつも理解してくれる家族と上司もですね（笑）。これからも、「僕たちのまち沼津は、僕たちがつくる」そんな気持ちで失わずに、楽しみながら取り組んでいきたいと思っています。